

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori

えとこだより



ここにあるすべてが、
かけがえのない「宝もん」。

阿賀野川の寒ヤツメ漁(東区 一日市) 撮影:山口冬人(NPP新潟県写真家協会理事) 協力:大形漁協

もくじ ●

「新潟水俣病と阿賀野川流域の現在」	2
ロバダン!特集	2
阿賀野川流域ロバダン!マップ	2
そもそも「ロバダン!」って何?	2
それぞれのロバダン!	4
ロバダン!が紡ぎ出した	6
F M事業の方向性	6
F M事業の紹介	7
「縁の下の力持ち」資料整備チーム	7
地域再発見講座(第2回)ほかお知らせ	8

地域の光と影に向き合う舞台、阿賀野川流域地域。

自信と誇りを持って
流域の宝もんを伝えるために。

「阿賀野川えとこだプロジェクト」(F M事業)を本格的に展開し始めて1年以上経ちました。この間、多数の人々からご協力をいただいたおかげで、パネル展やロバダン!の開催など、流域各地で多彩に展開することができました。

ロバダンで流域の様々な人々と語り合う機会が増えるにつれ、これまでの関係者の話や多くの報道からは伝わってこなかった新潟水俣病に対する見方や感じ方などが、地域や人によって実に様々であることに気づかされました。

同時に、流域に溢れる宝もんの数々を、堂々と誇りを持って語り伝えていきたいのに、それがなかなかできないでいる「ためらい」にも似た思いを、流域の多くの人々が共通して抱えていることも感じ取ることができました。そのことをもう少し深く探れば、F M事業が進むべき方向性が見えてくるのではないかと考え、今号では流域各地で開催したロバダン!を特集しました。 総合プロデューサー 小川弘幸